

## 【基盤研究(S)】

### 人文社会系（人文学）



#### 研究課題名 水中考古学手法による元寇沈船の調査と研究

琉球大学・法文学部・教授 いけだ よしふみ  
池田 栄史

研究分野：人文社会系・人文学・史学・考古学

キーワード：元寇・鷹島海底遺跡・海底音波探査・水中考古学・沈没船

#### 【研究の背景・目的】

1281（弘安4）年、中国元王朝皇帝フビライ汗は元、高麗の軍隊と先に滅ぼした金、南宋の軍隊を再編成して、日本への侵攻を図った。これを日本では弘安の役と呼ぶ。弘安の役は鎌倉幕府旗下にあった御家人達の奮戦と、偶発的な暴風雨によって失敗に終わった。長崎県と佐賀県の間位置する伊万里湾は、弘安の役の際、多くの元寇船舶が遭難した場所として知られる。

本研究では、これまでに伊万里湾で行ってきた音波探査によって作成した海底地形図および海底地層断面図に基づき、海底下に埋もれている元寇沈船を検出し、これについて水中考古学的調査を行い、その内容を明らかにする。

また、元寇沈船の発見に至った物理学的音波探査機器の水中考古学分野における汎用化を進めるため、新たな周辺海底における海底音波探査成果を踏まえた水中考古学的手法による調査実践を重ね、元寇遺物検出に至るまで過程を追証し、調査手法の確立を図る。

その上で、元寇とその内容を示す鷹島海底遺跡の存在および調査手法を含む研究の内容について、広く世界に情報発信し、元寇研究の世界化を図ることを試みる。

#### 【研究の方法】

本研究班はこれまでも伊万里湾における元寇関連遺跡の調査を進めてきた。その過程で、平成22（2010）年度には海底試掘調査を実施し、元寇船の船体木材と磚を確認していたが、本研究ではこれに対する本調査を実施する。これにより、元寇船の残存状況を確認するとともに、船体木材の引き揚げとその後の保存処理作業を進める。また、引き揚げ遺物については、保存処理とともに、木材の樹種同定、磚の胎土分析、放射性炭素年代測定などの科学的分析を進め、元寇遺物の総合的把握を進める。また、これまでの取得情報に基づき、本元寇船の復元を行う。

また、これまでに実施してきた物理学的音波探査によって作成した海底地形図および地質図の情報に基づいて、新たな元寇沈船および元寇遺物に対する水中考古学手法による確認調査を実施する。これによって、水中考古学と物理学的音波探査との融合を図り、新たな水中考古学調査システムを構築、提案する。

これまでに蓄積してきた元寇に関する日本、朝鮮、中国の文献史料に加えて、新たな文献史料および画像史料を追加収集し、元寇に関する文献史学分野からの分析をさらに一歩進める。

元寇および鷹島海底遺跡に関する情報の発信を目的とした国際シンポジウムを実施する。その際、長崎県および佐賀県内の博物館、あるいは九州国立博物館等の施設と協力して、調査で検出した元寇遺物を展示する特別展を開催し、元寇遺物の公開と周知化を図る。

これらの調査・研究活動をまとめた報告書を刊行するとともに、一般書を刊行し、元寇と鷹島海底遺跡に関する認知を広める。

#### 【期待される成果と意義】

これまで鷹島海底遺跡をはじめとする元寇関連遺跡では、元寇船や元寇関連遺物が散発的に検出されることはあった。しかし、本研究で調査を予定しているように元寇船船材がまとまって検出されることはなかった。本研究ではこれまでの欠を補い、調査資料を踏まえた元寇船の復元が期待される。

本研究を契機として、元寇という歴史的事件とこれに関する遺物に対する研究について、日本に止まらず、世界に向けて知らしめる機会を提供する。

さらに、本調査で試みている物理学的音波探査と水中考古学的調査手法の融合的研究については、日本における新たな水中考古学研究手法として、世界へ向けた発信が可能となる。

#### 【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

池田栄史・根元謙次「長崎県北松浦郡鷹島周辺海底に眠る元寇関連遺跡・遺物の把握と解明」『平成18～22年度科学研究費補助金基盤研究(S)研究成果報告書』第1集（全146頁）2009年、第2集（全86頁）2009年、第3集（全182頁）2011年  
佐伯弘次・森平雅彦・船田善之・池田栄史「《元寇》関連資料集（稿）」『平成18～22年度科学研究費補助金基盤研究(S)研究成果報告書』文献史料編Ⅰ（全530頁）2010年、同Ⅱ（全351頁）2010年、同Ⅲ（全173頁）2011年

#### 【研究期間と研究経費】

平成23年度～27年度  
80,800千円

#### 【ホームページ等】

検討中